

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

力を合わせ笑顔が光る日限の子 ～互いを思いやり認め合い、進んで活動できるようにします～
○学ぶことの意義や楽しさを感じながら、「意欲的に学び続ける力」を育みます。(知)
○相手の立場や気持ちを思いやって行動できる「優しさ」を育みます。(徳)
○健康を保持増進させる態度や、心身ともに「たくましく生きる力」を育みます。(体)
○まちがより良くなるために、自分が出来ることを考え、友達と力を合わせて行動する態度を育みます。(公)
○価値観が異なる相手ともコミュニケーションを図りながら、「共に生きていく力」を育みます。(開)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>
<問題発見・解決能力>
<言語能力>

具体化した資質・能力

<自分づくりに関する力>1年:好奇心、2年:自己のよさをわかるとうする姿勢、3年:主体性・積極性、4年:他者を理解する態度・自己を理解する姿勢、5年:自分らしさを発揮しようとする姿勢、6年:意思決定する力
<問題発見・解決能力>1年:願いをもち、2年:事実を大まかに捉える力、3年:問題を発見する力、4年:現実を比較する力、5年:試行錯誤する能力、6年:問題を認識する能力

中期取組目標

○友達と協力し、認め合いながら自分のよさを生かして活動する態度を育てます。
○学校や地域の中から問題を見出し、課題解決までの道筋を見通し、困難が生じた場面でも解決方法を工夫して、粘り強く取り組む態度を育てます。
○友達の立場や意図を理解しながら聞き、自分の立場や意図が伝わるようにまとめて、自分の思いや考えを伝えることができるようになります。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (授業改善 個に応じた指導) and 具体的取組 (①児童が考えたいと思えるような単元づくりを行う。②だれもが考えをもてるような手立ての工夫を行う。③自分の考えを表現する場を意図的に設定する。)

学力向上に関わる本校の状況

○令和4年度の横浜市学力・学習状況調査では、おおよそ市平均かそれを上回る学力であった。また学習・生活活意識調査も、平均を上回る結果となった。
○昨年度は、国語科を軸に相手意識や目的意識をもった言語活動を充実させ、思いや考えが伝わる喜びや違った考えを知る楽しさを味わいながら「人との関わりの中で伝え合う力」を高め、学力の向上を図ってきた。低学年では、同じクラスや保育園の児童と相手を確認し、計画的に相手と関わりを積み重ねていくことにより、思いを強めたり学習に対して意欲的に参加できたりすることが分かった。高学年では、子どもたちの思いから相手を設定することによって、自分の思いを自信をもって表現することができるようになった。しかし、1割程度の児童は、自分の考えもったり表現できたりしていないとアンケートで答えていた。
○そこで今年度は研究をさらに深め、一人ひとりが明確な自分の考えをもって表現しようとし、認め合うことで、さらに自信をもって表現しようとする児童を育成したい。そうすることでより学びを広げたり深めたりすることができ、学力向上へとつながると考えている。

今年度の目標

だれもが自分の考えをもつことができる単元づくりと手立ての工夫を通して、自信をもつて、表現し合える子どもを育てる。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期, 下半期. Content includes: ○算数科を通して授業研究を行い、「どうなっているのだろう」「考えてみたい」と思えるような単元づくりを行う。○思考を支えるための手立てを工夫する。○一人ひとりが自分に自信をもち、社会や集団の中で自分の役割を意識し、夢や希望、目標をもつことができる児童を育成するための「【自分づくり教育】を充実させる10の視点」から授業づくりを行う。○考えを伝え合う場面を設定する。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (人権教育) and 具体的取組 (①異学年交流活動を充実させ、友達のよさを認め、思いやりのある子どもに育てる。②保護者や地域の方たちにも自分からあいさつすることができるよう指導していく。③教職員自ら人権感覚を磨くとともに年間を通して人権を大切に教育活動を実施し、保護者にも発信する。)

豊かな心に関わる本校の状況

児童(生徒)の実態(豊かな心の育成にかかわる課題)
○穏やかで、落ち着いた学校生活を送っている。互いを認め合い、協力して活動しようという思いをもっている児童が多い。
○「あいさつ」がコミュニケーションの基本と考え、「あいさつ運動」に取り組んでいるが、あいさつをする相手に限られている。
○家庭や地域は学校に協力的で、子どもの活動や安全について、進んで関わりをもって活動して くださる。
○自分の課題を、まずは自分で考えてみる力をつける必要がある。

今年度の目標

異学年交流の機会を増やしたり、活動を工夫したりして相手の立場や気持ちを理解し、尊重する態度を育てる。地域の人たちとあいさつで繋がりが、様々な立場の人との交流を深める。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期, 下半期. Content includes: ○異学年間の交流の充実。上半期は、校内でペア活動とたてわり活動を行い、それぞれの学年の活動のめあてや役割を子どもたち自身が自覚することで、意欲的に活動できるように支援していくとともに、思いやりや協力する心を育てコミュニケーション力を高める。○豊かな感性や情操の育成。地域ボランティアによる読み聞かせ(全学年)等を通して、読書活動の充実を図る。○「特別の教科 道徳」が子どもたちにとって魅力的なものになるように教材研究、指導法を研究し、充実を図る。○各学年の宿泊、校外学習を通して、公の場でのルールやマナーを身に付けるとともに、様々な立場の人と交流しコミュニケーション能力を高める。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健康教育 食育 安全教育) and 具体的取組 (①年間を通して、1校1実践運動で縄跳びに取り組み、児童が自分のめあてをつくり、達成する喜びを味わうことができるようにする。②学校保健委員会では、「運動」に視点をあてて取組み、全校児童が自分の生活を見直し、改善していくことができるようにする。③感染予防対策を徹底し、安全に学校生活を送ることができるように取り組む。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態
○体力・運動能力調査
※令和4年度のデータ掲載
(2)これまでの学校の取組状況
○令和3年度まで一校一実践は持久走に取り組んできた。R令和4年度からは年間を通して取り組めるように縄跳びに取り組んでいる。
○学校保健委員会では、「運動」に視点をあて、自分のできるストレッチなどを提案し、児童自らが自分の生活を見直し、改善していくことを目指した。
○給食週間をきっかけに、バランスの良い食事の取り方について学んできた。
○避難訓練では、事前指導と振り返りを行うことで、「命を守るのは自分である」という意識をもてるようになった。

今年度の目標

健康な生活を実践する態度や自己の健康のために主体的に課題解決する力を育む。特別活動や総合的な学習の時間を通して、心身の健康な生活を実践する態度や規則正しく生活したり、進んで運動したりする態度を育む。また、避難訓練や安全指導をとして、自動の意識をもったり、危機管理意識を高めたりできるようにする。

目標を実現するための具体的行動プラン

Table with 2 columns: 上半期, 下半期. Content includes: <体力づくり> ○一校一実践では、運動委員会を中心に「なわとびチャレンジタイム」を行う。第1期は、短縄に挑戦し、自分のめあてを達成できるようにする。○保健> ○学校保健委員会では、児童保健委員会と児童運営委員会の担当者が協働して、児童の活動の充実を図る。また、保護者・地域の参加を募り、活動を広げていく。○学年ごとや年度によって掃除の仕方が変化することによる児童の戸惑いを減らし、かつ、安全に清掃指導ができるようにする。○基本的な感染症対策として、手洗いや換気、せきエチケットなどを行い、安全に学校生活を送ることができるように取り組む。(安全教育) ○毎月の避難訓練を通して、「命を守るのは自分である」という意識をもてるように事前指導と振り返りを行う。○防犯寺子屋(1年)と交通安全教室(1・4年)を行う。その他の学年でも、各学年に応じた内容の交通安全指導を行う。また、定期的に交通安全教育を行うことで、児童自身の危機管理意識を高める。○4月始めに、教員研修(シャッター研修、エレベーター研修、引き取り訓練研修など)を行い、職員の安全に対する意識を高める。